

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、音楽、映像、音声、文字などさまざまな情報のやり取りが、社会をいかに構成し、社会にいかに関与し、社会からいかに影響を受けているのか、社会学的視点から多面的に理解することを目的とします。

そのために、講義スケジュールは大きく2つのパートから構成されます。(1)情報をメディアの視点から捉え、テレビ、音楽メディア、ラジオ、電話、出版といった私たちに身近なメディアの近年の歴史的変動を探り上げ、私たちの常識的なメディア観を再検討します。(2)情報社会の社会学的意味を幅広く捉えるために、時間性、空間性、うわさ、ネットワーク、監視、ビッグデータといった多様な理論的視点を掘り下げます。

2. 授業の到達目標

- (1)各メディアの社会史の変動を社会学的な観点から説明できる。
- (2)情報社会の理論的ポイントについて社会学的用語を用いて説明できる。
- (3)メディアや情報社会の問題や展望について、自分なりに分析して表現できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・リアクションペーパー: 70%
- ・小レポート: 30%

4. 教科書・参考文献

参考文献

吉見俊哉 『メディア文化論』(2012年) 有斐閣
中村とうよう 『大衆音楽の真実』(1985年) ミュージックマガジン
松田美佐 『うわさとは何か』(2014年) 中央公論新社
※その他、毎回参考文献は各授業ごとに紹介する

5. 準備学修の内容

- ・各回の授業内容に即したリアクションペーパーの記入
- ・課題小レポートの作成

6. その他履修上の注意事項

- ・授業計画は、受講生の関心や社会情勢によって適宜変更します。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---------------|
| 【第1回】 | オリエンテーション |
| 【第2回】 | テレビ・バッシングの社会史 |
| 【第3回】 | 電話の社会史 |
| 【第4回】 | ラジオの社会史 |
| 【第5回】 | ポピュラー音楽の社会史 |
| 【第6回】 | 日本のポピュラー音楽小史 |
| 【第7回】 | 携帯電話の社会史 |
| 【第8回】 | 映画の社会史 |
| 【第9回】 | 出版と読書の現代史 |
| 【第10回】 | 情報社会と時間性・空間性 |
| 【第11回】 | うわさの理論(1) |
| 【第12回】 | うわさの理論(2) |
| 【第13回】 | 情報交換のネットワーク |
| 【第14回】 | ネット社会と監視社会 |
| 【第15回】 | まとめ |